

(別記)

豊根村地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊根村は、愛知県の東北部に位置し、人口約 1,182 人が暮らしている。総面積は 15,588ha あり、そのうち 93%を森林が占め、耕地面積は僅か約 1%と極めて少なく、標高 200m から 1,000m に散在している。耕作地の多くは山間地域特有の急傾斜地に立地している。

農業者は、農業経営基盤が零細であるため第二種兼業農家がほとんどである。また、高齢化、過疎化等担い手不足の影響により、耕地の遊休化、荒廃化、引いては集落としての存続も危ぶまれている地域も存在している。

水田面積は 40ha あるものの、過疎化、高齢化に伴い、近年の作付面積は 25ha 前後である。水田の多くは山付きの陽当りの劣悪な湿田や作業効率の悪い 10a 未満の狭小水田、変形水田であり、ほとんどが自家消費用の飯米である。

転作の開始以来、気候条件に適した作物の栽培を模索、推進してきた。

現在は、パイプハウスを利用した夏秋トマトやミニトマト、遊休耕地を活かしてブルーベリーの集団転作、国道沿いの直売所で販売するための野菜等が取り組まれている。

近年は、各集落において鳥獣害の被害が多くなってきており、農業者の営農意欲を減退させている。

2 作物ごとの取組方針

(1) 主食用米

県内の消費需要は相当量ありながらも、本村の実情は主として自家消費のための作付けが大半である。一部、販売流通の米は品質面において高評価を受けているものの現状では量的に需要に応えきれていない。

そこで、近隣の町や農業協同組合と連携を図り、村から情報提供された水稻生産数量目標の範囲内で各種取り組みを推進する。

○山間特産うるち米「チョコニシキ」を主力品種として作付けを推進していく。

○担い手への土地集積を図り、作業効率の向上を図る。

○種子更新、食味計等を利用した肥培管理により品質の向上を図る。

○共同乾燥施設利用により品質の向上と均質化を図る。

○栽培暦を基本とする安心安全な米作りと生産履歴簿の記帳を徹底する。

(2) 非主食用米

作付け予定なし

(3) 麦、大豆、飼料作物

作付け予定なし

(4) そば、なたね

作付け予定なし

(5) 野菜

従来枠を活用して「トマト」「ミニトマト」「奥三河天狗ナス」「ニンニク」「みょうが」「万願寺とうがらし」「シキミ」「ブルーベリー」「シイタケ」を地域の特産品

として振興するとともに、将来に向けて付加価値の高い作物として産地化を推進する。

(6) 不作付地の解消

米不適作地へ振興作物の作付けを推進し、不作付地の解消を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 28 年度の作付予定面積 (ha)	平成 30 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	10	10	10
飼料用米	—	—	—
米粉用米	—	—	—
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	—	—	—
備蓄米	—	—	—
麦	—	—	—
大豆	—	—	—
飼料作物	—	—	—
そば	4	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	11	11	12
野菜	6	6	7
花き・花木	1	1	1
果樹	3	3	3
その他	1	1	1

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 28 年度 (目標値)	28 年度の 支援の有無
					()	()	
					()	()	
					()	()	
					()	()	

※「分類」欄については、実施要綱別紙 16 の 2 (5) のア、イ、ウのいずれに該当するか記入してください。(複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入してください。)

- ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組
- イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組
- ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり